

2-4. 中野区

No.	4	中野区
-----	---	-----

1. 取組の全体像

1. 自治体の概要

①	自治体名	中野区	②	担当部局名	地域支えあい推進部 (地域活動推進課、地域包括ケア推進課、介護保険課からなる横断的組織体系)
③	人口	344,880(人) <令和2年10月/国勢調査>			
④	自治体内連携	庁内連携部局(メイン)		地域支えあい推進部 地域包括ケア推進課	
			庁内連携内 ※会議体、情報共有	・地域包括ケアシステムにおける地域ケア会議に孤独・孤立対策部会を設置し、既存のネットワークの拡大と孤独・孤立の課題共有を行う。地域包括ケアという名前だが、扱う領域は高齢者や介護に限らない	
		庁内連携部局(メンバー)		孤独・孤立対策関係課	
			庁内連携内容 ※会議体、情報共有	多機関協働事業など重層的支援体制整備事業による庁内連携を軸に、NPO や民間企業等による孤独・孤立支援チャンネルの拡大、情報共有、施策立案、社会実装に向けた検討など行う	

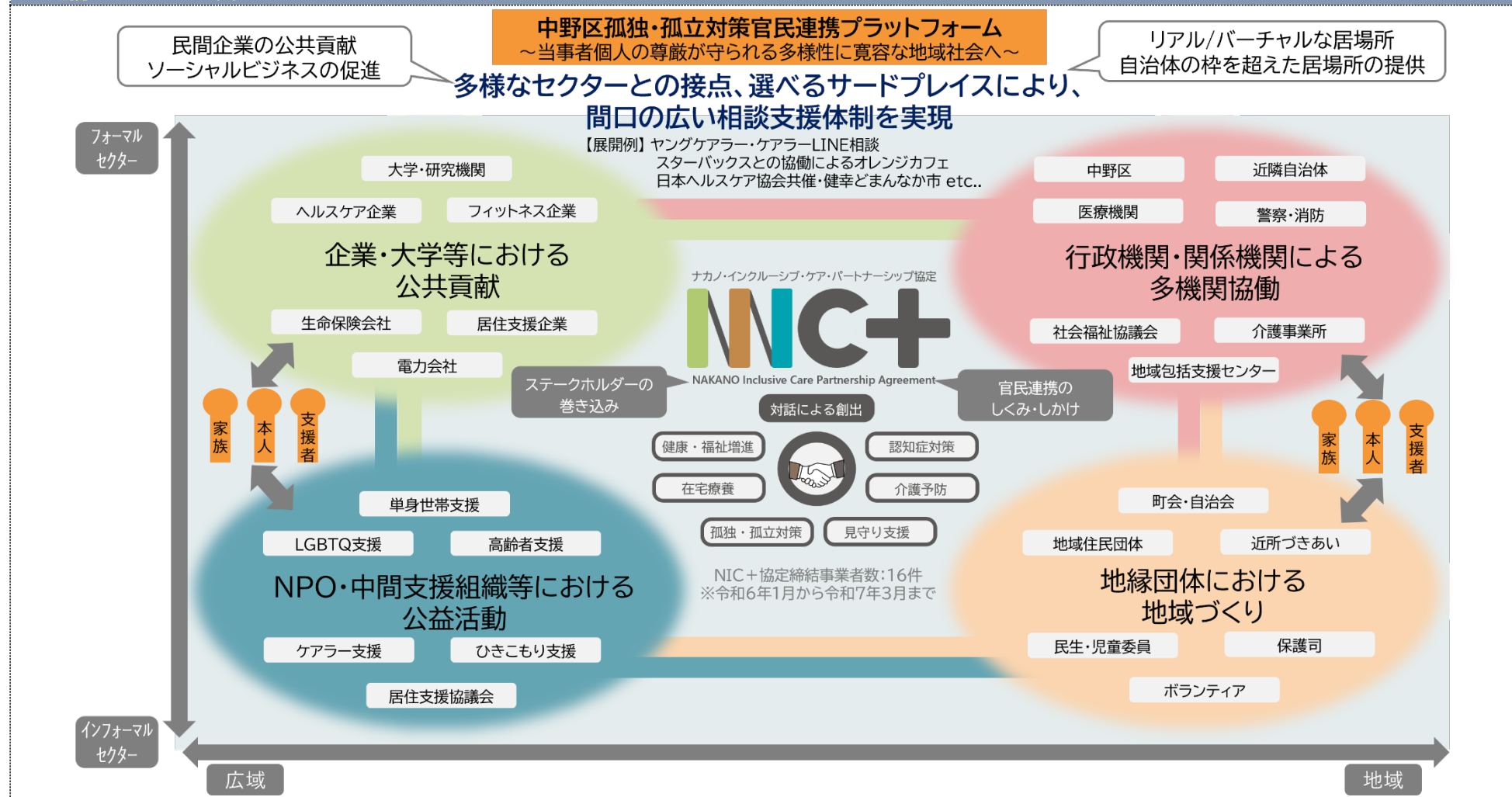
2. 形成をめざす地方版連携 PF の姿

①	従前の取組 ※重層の取組、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	- 重層的支援体制整備事業として、既存の会議体等を活かしながら、包括的相談支援のための基盤づくり、ひきこもり等への参加支援、地域づくり支援を展開 - 地域の課題について話し合い、解決に向けた行動につなげていくための推進組織として、地域ケア会議を設置 - 中野区における地域包括ケア体制の充実を図ることを目的として、中野区地域包括ケア推進パートナーシップ協定(NIC+協定)制度を導入し、官民連携による取り組みを推進			
②	実現したい状態 ※構築する仕組み/支援対象の住民を取り巻く環境	今年度のゴール		- 孤独・孤立フォーラム開催による機運醸成 - 動画配信による情報発信 - 近隣区との連携による支援の拡大(試行)	
		最終的なゴール		当事者個人の尊厳が守られる、多様性に寛容な地域社会に向け、行政機関や地域団体、教育研究機関、民間企業等のネットワークを構築し、連携・協働による啓発活動や支援方策の社会実装をめざす	

3. 地方版連携 PF における連携体制			
①	地方版連携 PF (種類があれば)	立ち上げ年度	令和8年度(予定)
		参画メンバー	様々な分野の民間企業、NPO 法人、社団法人、社会福祉協議会、地域団体、大学、孤独・孤立対策関係課 令和7年度までは孤独・孤立対策部会として運用
		選出・打診時の工夫	孤独・孤立対策部会のメンバーに加えて、NIC + 協定事業者を増やし、福祉以外の分野の企業・団体を巻き込んでいく
②	地域協議会 ※特に専門性の高い支援を行う団体等で構成	立ち上げ年度	令和8年度(予定)
		参画メンバー	重層的支援体制整備事業の枠組を活用した展開を検討
		選出・打診時の工夫	孤独・孤立対策部会で検討
4. PF 連携による価値や工夫_考え方			
・ 情報共有→孤独・孤立に関する課題や当事者について、様々な参画メンバーで共に議論し、孤独・孤立対策の現状や提供できる支援策について情報を共有する ・ 有機的な連携の促進→参画メンバー間での交流を促進することで、支援団体間での連携が強化され、より多くの支援が必要な人へ、様々な分野からの支援策を提供できるネットワークを構築する ・ 孤独・孤立対策をテーマにしたイベントの実施→PF 参画団体が参加する区民向けイベントによって、孤独・孤立に関する情報を発信し、意識の醸成を図るほか、支援体制について周知する			

2. 連携 PF イメージ

5. 連携PFのイメージ図



3. 試行的事業一覧					
6. 本年度に取り組む試行的事業の概要					
試行的事業のポイント・工夫		- PF 参画団体の取り組みを区民に周知する - 孤独・孤立に関する区民の意識醸成を図る			
	事業名称	事業内容	目的/期待効果・KPI	実施時期	発注先
①	孤独・孤立フォーラムの開催	【業務内容】孤独・孤立フォーラムを開催した 【対象】メインターゲット:若者 / サブターゲット:支援団体 【形式】対面 【次第】 - 開会挨拶 - 基調講演 - パネルディスカッション - 閉会挨拶	- 孤独・孤立対策 PF 設置の周知 - 孤独・孤立対策 PF に参画する支援団体等の掘り起こし及び巻き込み - 孤独・孤立に関する区民の意識醸成	11月ー:準備 2月:実施	株式会社 Omniheal (200万円)
			成果検証結果	✓ フォーラム参加者数:151名 ✓ フォーラムへの満足度:非常に満足・満足91% ✓ 孤独・孤立の課題についての理解度:非常に深まった・深まった95% ✓ 連携 PF への参画意向:関心がある23件	
②	動画制作	【業務内容】ヤングケアラー支援アニメーションを制作した 【タイトル】「きかせてほしい きみのこと」 【あらすじ】幼馴染のケンタの様子が気になるゆうま。ケンタの状況を聞き、ヤングケアラーを知る。 【時間】約4分	- ヤングケアラーの認知度向上 - ヤングケアラー支援事業の周知 - 声を上げてもいい、助けを求めてもいいと思える社会の意識醸成、個人の行動変容	10月ー:準備・制作 4月ー:公開(予定)	株式会社 MAPPA (200万円)
			成果検証結果	✓ アニメーションは区の公式 Youtube で公開を予定しており、中野区に限らず、全国に向けてヤングケアラー支援の啓発につながるものである。 ✓ アニメ制作会社の SNS も活用し、ティザーを打つことで、注目度を高めた。(X 表示数約5万)	
7. 次年度以降に向けた事業等の案 ※PDCA サイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ(あれば)を					
- 第9期中野区地域包括ケア推進会議孤独・孤立対策部会における孤独・孤立官民連携PF、地域協議会の設置検討 - ヤングケアラー支援アニメーションのプロモーションを兼ねた普及啓発の取り組み(パネル企画展の開催等)					
8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響					
- 関係機関より連携の必要性について声が上がった - 高齢者だけではなく、若者に対する支援の必要性についても課題認識があった					

4. 連携 PF の行程および実務上の留意点

【PF 立ち上げまでの行程】 ※令和6年度から孤独・孤立対策を実施

R5 年度	(ア)初期段階	
4月～	主担当部署の設定	■広域連携が特徴の地域支えあい推進部が、孤独・孤立対策を担当
9月～	担当者の初動	■例年開催していたシンポジウムで、孤独・孤立対策に関するデータを調べて講演を行った
R6 年度	(イ)準備段階	
	地域の現状把握	■孤独・孤立についての調査や、試行的事業のテーマに関わる実態調査を行う
4月～	連携 PF の企画・設計	■マンネリ化していた地域包括ケア推進会議に、民間企業などのオブザーバー参加を得て、孤独・孤立対策部会を設置した
6月～	取組テーマ決定	■PF では幅広い世代を対象としながらも、まだ注目されていない世代として、特に若者の孤独・孤立に着目した ■ヤングケアラーに関する実態調査をもとに、ヤングケアラー当事者の周囲にいる子どもたちを対象とした啓発を行うことを決める
6月～	関係団体のリストアップ(庁外)	■庁内の既存のネットワークから、孤独・孤立対策に関連する組織とつながった
9月～	関係団体のリストアップ(庁内)	■既存のつながりからの派生や、中野区からの能動的な声掛けなど、様々なきっかけを通じて、民間企業との協定を結んでいる
	(ウ)設立段階	
2月～	域内住民・団体への情報発信	■中野区を拠点とするアニメ制作会社と協力し、ヤングケアラー当事者の周囲の子供たちに向けた、啓発アニメを制作 ■孤独・孤立対策に関する若者の活動を紹介するフォーラムを開催した
今後	連携 PF の運営	■地域包括ケア推進会議の孤独・孤立対策部会をもとにしながら、NIC+協定などを通じて拡大を図る
	(エ)自走段階	
今後	地域協議会の設置	■地域ケア会議等、既存の会議体との関係を整理しながら検討を進める
今後	PF の拡大・活性化	■NIC+協定でつながった民間企業には、民間企業側からの協力提案を受けるだけでなく、中野区側からも協力してほしいことを提案していく

【それぞれの段階での留意】

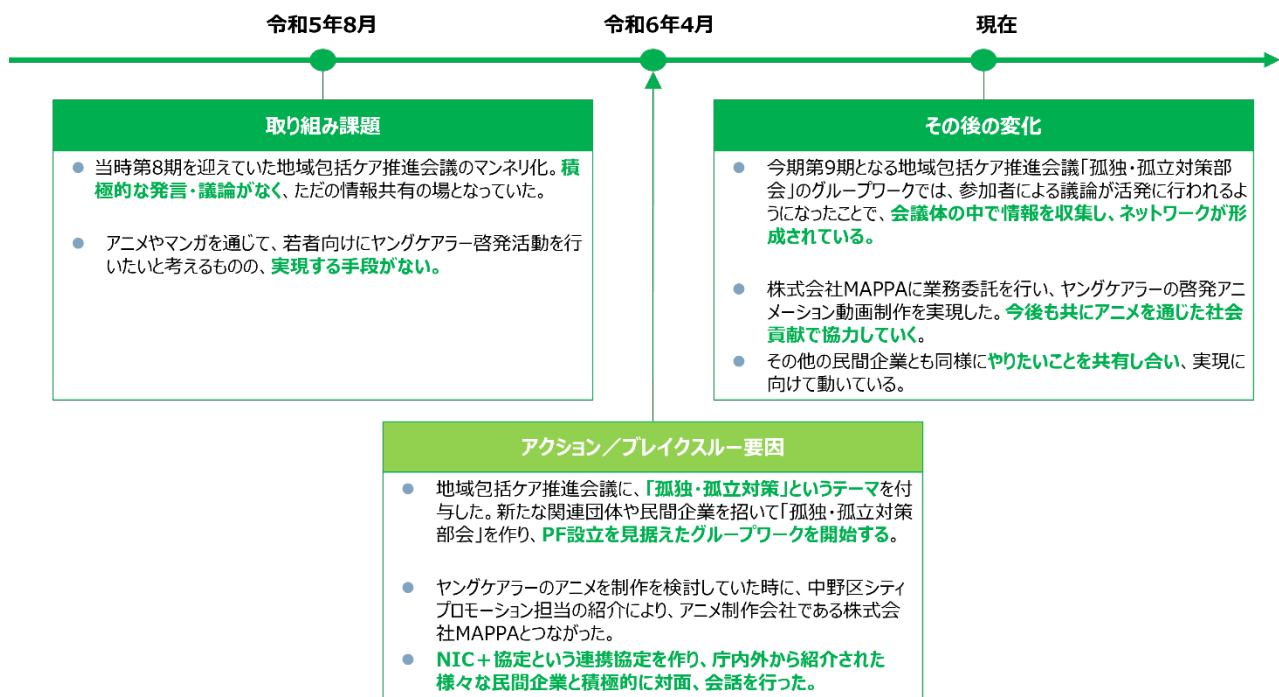
(ア) 初期段階		
①	主担当部署の設定	■ <u>広域連携が特徴の地域支えあい推進部が、孤独・孤立対策を担当</u> 孤独・孤立対策という様々な分野を巻き込む必要性のある取り組みには、横断的組織体系である地域支えあい推進部が適任であるとされた。地域支えあい推進部の中でも、広域活動を担当し、NPO 法人との関わりあった地域包括ケア推進課であれば、今までの活動を生かせるだろうという期待があった。
②	担当者の初動	■ <u>例年開催していたシンポジウムで、孤独・孤立対策に関するデータを調べて講演を行った</u> 例年開催していた中野区地域包括ケアシンポジウムの令和5年のテーマを「孤独・孤立対策を考える」に設定した。地域支えあい推進部長が孤独・孤立に関するデータを集めて講演を行い、地域包括ケア推進課長は支援者から当事者になった時に視点の変化が起こったという自身の経験に基づくプレゼンをした。

(イ) 準備段階		
③	地域の現状把握	■ <u>孤独・孤立についての調査や、試行的事業のテーマに関わる実態調査を行う</u> - 令和2年度「暮らしの状況と意識に関する調査」で孤独・孤立に関する調査を実施した。 - 令和5年度小学4年生から高校生世代を対象に「ヤングケアラー実態調査」を行った。
④-1	取組テーマ決定	■ <u>PF では幅広い世代を対象としながらも、まだ注目されていない世代として、特に若者の孤独・孤立に着目した</u> - PF は幅広い世代を対象としながらも、まだ注目されていない世代として、特に若者の孤独・孤立に着目した。小中学生、就職氷河期世代、高齢者の孤独はそれぞれ注目されているのに対し、20-30 代の孤独・孤立は、対策の制度がないと考えた。 ■ <u>ヤングケアラーに関する実態調査をもとに、ヤングケアラー当事者の周囲にいる子どもたちを対象とした啓発を行うことを決める</u> - ヤングケアラーに関する既存の取り組みは、こども家庭庁を中心になされているものの、コーディネーター配置など支援者支援に偏っているという意識があった。ヤングケアラーに関する実態調査を行った際に、自由記述欄に子どもたちの意見が多く寄せられたことから、子どもたちが自分で考え、自分の意見を持っていることに気が付いた。そこで、当事者の周囲にいる子どもたちに、ヤングケアラーの存在を伝えるという形の当事者支援を行うことを決めた。
④-2	連携 PF の企画・設計	■ <u>マンネリ化していた地域包括ケア推進会議に、民間企業などのオブザーバー参加を得て、孤独・孤立対策部会を設置した</u> 地域包括ケア推進会議のマンネリ化を受けて孤独・孤立というテーマ性のある部会を設置した。NIC+協定事業者のオブザーバー参加を得ながら、孤独・孤立対策 PF 設置を見据えてグループワーク形式をとった。
⑤	関係団体のリストアップ 初期メンバーへの声掛け	■ <u>庁内の既存のネットワークから、孤独・孤立対策に関連する組織とつながった</u> - 中野区長や庁内の他部署を通じて、孤独・孤立対策に関連する企業や、地域包括ケア推進課が取り組みたいことが実現できそうな企業とつながっている。 - ヤングケアラーのアニメーション制作を検討していた時に、取り組みたいことが実現できそうな企業とつながっている中野区シティプロモーション担当の紹介により、アニメ制作会社である株式会社 MAPPA とつながった。
		■ <u>既存のつながりからの派生や、中野区からの能動的な声掛けなど、様々なきっかけを通じて、民間企業との協定を結んでいる</u> - もともと中野区とのつながりがある大学教授からの紹介を受けたり、中野区が参加したセミナーの参加企業への声掛けをするといった能動的な活動をしたり、様々なきっかけを通じて、新たな民間企業とつながっている。 - 企業からの提案を受ける際は、必ず対面でお互いのやりたいことについて話し合い、マッチングするかを確かめている。

(ウ)設立段階		
⑥	域内住民・団体への 情報発信	■<u>中野区を拠点とするアニメ制作会社と協力し、ヤングケアラー当事者の周囲の子供たちに向けた、啓発アニメを制作</u> - 中野区シティプロモーション担当からの紹介で、中野区に拠点を移したばかりの株式会社 MAPPA とつながることができた。予算の問題があり、アニメ制作実現が難しく思われたときもあったが、株式会社 MAPPA が街の一員として地域に貢献したいと考えていたことや、ヤングケアラー支援の取り組み内容に共感を得たことにより、実現することができた。 - ヤングケアラーは、家庭の問題であるため、周囲の人が干渉しづらい。どのように本人やその家族に気づきを与え、必要な人たちとつながれるようにするのかを考えながらの制作となった。 - アニメ制作が完了した後は、中野区内の小学校・中学校での視聴、中野区 YouTube チャンネルでの公開を行う。株式会社 MAPPA 及び株式会社 コントロール公式 SNS での宣伝、中野区内でのアニメの制作工程の展示による宣伝を通じて、ヤングケアラーに接点のない子どもたちにも、関心を向けてもらえるようにする。 ■<u>孤独・孤立対策に関する若者の活動を紹介するフォーラムを開催した</u> - フォーラムでは、テーマである「若者の孤独」を前面に押し出すのではなく、若い世代の支援者を多く巻き込んだパネルディスカッションを設計した。支援の対象は若者、女性、高齢者など様々だが、若者が取り組む孤独・孤立対策の活動を知ってもらう場になった。
⑦	連携 PF の運営	■<u>地域包括ケア推進会議の孤独・孤立対策部会をもとにしながら、NIC+協定などを通じて拡大を図る</u> 来年度以降に連携 PF を設置する。地域包括ケア推進会議の孤独・孤立対策部会をもとにしながら、NIC+協定などを通じて拡大を図る。まずは中野区が中心となって運営していく想定である。
⑧	地域協議会の設置	■<u>地域ケア会議等、既存の会議体との関係を整理しながら検討を進める</u>

(エ)自走段階		
⑨	PF の拡大・活性化	■<u>NIC+協定でつながった民間企業には、民間企業側からの協力提案を受けだけでなく、中野区側からも協力してほしいことを提案していく</u> - 官民連携に向けたしくみである NIC+（ナカノ・インクルーシブ・ケア・パートナーシップ）協定を通じて、福祉に限られない幅広い領域の団体や民間企業を、孤独・孤立対策 PF に巻き込んでいく。 - NIC+協定では、民間企業と協定を結ぶことをゴールとせず、民間企業からも中野区からも一緒に取り組めることを提案しあって、具体的な動きを作り続けることを大切にしていく。

ブレイクスルー要因	
アクション/ ブレイクスルー要因	■官民連携のための仕組みを作り、官民双方からやりたいこと・できることを共有し合えるように、積極的に対話を行っている - もともと若者向けにヤングケアラー啓発活動を行いたいと考えるものの、実現する手段がないという状況に対し、紹介を通じてアニメ制作会社とつながったことで、ヤングケアラーの啓発アニメーション動画制作を実現した。制作のみに留まらず、今後も共にアニメを通じた社会貢献で協力していくための準備を行っている。 - NIC+協定という連携協定制度を作り、庁内外から紹介された様々な民間企業と積極的に対面、会話をしていることで、その他の民間企業とも同様にやりたいことを共有し合い、実現に向けて動いている。



コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携 PF の重要性～

株式会社 MAPPA / 株式会社 コントレール

- 株式会社 MAPPA
 - ・ 令和3年に設立し、テレビアニメを中心に、映画、CM、Web ムービー等、ジャンルにとらわれない様々な映像作品の企画・制作を行う。また、自社で権利を保有する IP の窓口権を運用し、国内外でのライセンス事業も展開する。
- 株式会社 コントレール
 - ・ 令和元年9月に MAPPA のグループ会社として設立。片渕監督の『この世界の片隅に』、『この世界の(さらにいくつもの)片隅に』の制作をきっかけに、共通の考え方、共通の技術基盤を共有するスタッフたちを作り出すスタジオとして設けられた。

💡 中野区の取り組みを通じて、アニメーションの力で社会に貢献したい

- 株式会社 MAPPA
 - ・ 令和6年10月に東京本社を中野区へ移転し、街の一員として地域に貢献していきたいと考えていたところ、中野区からヤングケアラーを題材にしたアニメーション制作のお話をいただいた。取り組み内容に共感したため、本作品を制作させていただくこととなった。
 - ・ 当社も中野区の取り組みを通して社会課題への学びを続けていき、アニメーションを通じて社会に貢献していきたい。
- 株式会社 コントレール
 - ・ ヤングケアラーを題材にしたアニメーション制作する事で、私達“作り手側”にも得るものが大きかった。制作過程で支援者や当事者の方への取材の機会を沢山いただき、映像を通じて課題に向き合う姿勢や何を伝えるべきかを深く考える機会になった。アニメーションの絵作りとは別に映像を作る意義を再認識出来るととても良い経験になった。



本作品を通して中野区が取り組んでいる
「孤独・孤立対策」の一助になれば幸いです

株式会社 MAPPA 代表取締役社長
株式会社コントレール 代表取締役
大塚 学

コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携 PF の重要性～

特定非営利活動法人文楽舎みんなのよりば

- ・ 代表の林誠氏が、子どもたちのサードプレイスとして平成 25 年から自宅を開放して文楽舎を開設。子どもの学校と家庭の往復からはみ出した、寄り道できる「寄り場」であると同時に、心の拠り所になる「拠り場」である居場所づくりを行っている。令和 6 年から NPO 法人化し、子どもの頃文楽舎で育った青年たちと共に、孤独・孤立な子どもたちへの継続的支援が可能な体制づくりに取り組んでいる。
- ・ 文楽舎では、訪ねてくる子どもたちに対し、「何もしない」ことを行っている。大人が持っている社会の価値観を子どもたちに押し付けることなく、ただ子どもたちが本来持っている力を信じ、子どもたちのそばにすることで、「子育て」ではなく、「子育て」を待つ。
- ・ 子どもたちは、文楽舎で、提供される食事を食べたり、庭にある倉庫を秘密基地にしたりと、自由に過ごすことができる。林誠氏は、必要があれば保護者の代わりに学校の進路相談に出向いたり、大学進学のための保証人になったりといった「里親」の役割も果たしている。

💡 孤独・孤立対策 PF に求めるのは、専門機関同士をつなぐネットワークになること

- ・ 不登校やいじめなどの専門的な支援組織やその知識は非常に大切であるものの、その枠組みをすり抜けてしまう子どもたちを受け止める場所が必要である。子どもたちが抱える問題は、名前のある問題1つによって成り立っているのではなく、名前のない問題が複雑に絡み合っ構成されている。例えば、「お父さんの話し方がなんとなく怖い」という気持ちを抱える子どもを、DVやネグレクトの専門機関で救うことが難しい。
- ・ また、子どもの問題は、多くの場合、家族の問題ともつながっている。例えば、不登校になった子どもがいるとき、その子どもを学校に行かせなければと焦るお母さんにも、サポートが必要である。この時、子どもの支援組織とお母さんの支援組織がつながっていなければ、適切なサポートを行うことは困難である。
- ・ 縦に専門性を磨く機関が横に広がることは難しいため、専門機関同士をつないでいく別の存在が必要である。連携 PF には、そのネットワークになる役割を果たしてほしい。学校、家庭、行政、各支援機関がつながっていることで、名前のない問題への対応や、家族全体への包括的なサポートが可能になる。

💡 地域に住む個人の巻き込み、支援団体の認知拡大も、孤独・孤立対策 PF の機能として期待している

- ・ 民生委員のような具体的な活動を行っていない高齢者の方にも、困っている子どもたちを気にかけて、助けたいという思いを持っている方はたくさんいる。組織で固めてしまうと責任が生じ、動き取りづらいこともあるため、思いのある個人を巻き込んだゆるいつながりが生まれると、取り組みの幅が広がっていくのではないかな。
- ・ 支援団体としての活動を通じて感じる地域の実態、課題や、それを解決するために行っている取り組みについて、地域に発信していくことが大切だと思っているものの、どこに向けて発信すればいいのかわからない状態である。PF には、それぞれの支援団体が持っている思いを語り合う場を作ったり、その声を地域に向けて発信したりする役割を担ってほしい。



子どもたちが孤独で、心が孤立している状態とは、安心して過ごせる環境や信頼してつながれる人との関係が、見失われてしまっていることだと考えます。まず倒れている子どもに気づき、そっと寄り添うこと。助けてと声をあげられる環境を用意し、何かをしてあげるのではなく、子ども自身が行動しようとするまで、伴走者としてそばにいます。それを大切にしています。

特定非営利活動法人文楽舎みんなのよりば
代表理事 林 誠

--	--

コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携 PF の重要性～

認定 NPO 法人 CLACK

- CLACK は、平成30年から「生まれ育った環境に関係なく、子どもが希望とワクワクを持てる社会。」をビジョンに掲げ、デジタル教育とキャリア教育の事業を通じて、中高生の進路の選択肢を広げ、経済的自立と精神的自立を促している。
- 英和7年年 2 月に中野区鷺宮で中高生のクリエイティブハブ「テクリエさぎのみや」をオープン。ソフト面だけではなくハード面からも中高生に対する支援を行うため、中高生ならだれでも無料で自由に利用できる空間を提供している。1F ではワッフル屋を運営して中高生以外の層との接点を持ち、中高生の保護者などにも取り組みについて知ってもらう工夫を行っている。

📍 **中野区での活動を始めたばかりの CLACK では、地域からの信頼を得ることを重視している。中野区と NIC+協定を結び、連携 PF の一員となることで、地域に根差した居場所となることを目指す**

- 中高生には、学校以外の実体のある居場所が少ない。学校になじめない子どもたちがつながりを求めて行きつくのが SNS になるが、ゲームなどを通して知り合った顔の見えない相手とは、恋愛問題や闇バイト、オーバードーズのようなトラブルに発展する危険性がある。そのため、「テクリエさぎのみや」の利用を通じて、中高生が学校以外に同世代同士でつながるきっかけや、顔の見える大人と知り合うきっかけを得られるようにしている。
- 中高生にとって信頼できる大人のいる場所であることと同様に重視しているのが、中高生の保護者や学校など、地域全体にとっても信頼して中高生を預けられる場所になることだ。CLACKは大阪市から始まった団体であり、中野区での活動を始めてまだ日が浅い。そこで、地域での信頼が得られるよう、地域の学校に出向き、校長や現場の教員たちに活動について理解が得られるよう、対話を行っている。しかし、「テクリエさぎのみや」周辺の人々と顔見知りになる中で、更に一歩外にネットワークを広げることの難しさを感じ、そのきっかけとして中野区との協力を選んだ。
- CLACK は令和6年9月から中野区との間で中野区地域包括ケア推進パートナーシップ(NIC+)協定を締結した。今後中野区で構築される孤独・孤立対策 PF のネットワークや取り組みを通じて、中野区で活動する様々な支援団体などと実際に顔を合わせ、鷺宮エリア以外の団体や人々ともつながりを持つために、積極的な活動を行っていく。



中高生に対し、デジタル等を活用した多様な体験や機会の提供を通じて、継続した学習支援や人との繋がりにより孤独・孤立の状態となることの予防・解消をめざしています。

連携 PF の一員となり、より一層中野区と連携・協力することで地域一体となった包括的な支援を行ってまいります。

認定 NPO 法人 CLACK

5.自治体等との打合せ記録一覧				
No.	日時	打合せ相手団体	出席者 打合せ相手	NRI
1	8/22(木) 11:00-12:30	中野区役所 地域支えあい推進部	石井様、河村様、 赤峰様、塚西様、金子様	生駒、谷本、加藤
2	9/10(火) 14:30-16:00	中野区役所 地域支えあい推進部	石井様、河村様、 赤峰様、塚西様、金子様	谷本、加藤
3	10/2(水) 15:00-16:30	中野区役所 地域支えあい推進部 株式会社 Omniheal	石井様、河村様、 赤峰様、塚西様、金子様 熊谷様	生駒、谷本、加藤
4	10/16(水) 11:00-12:00	中野区役所 地域支えあい推進部 中野区役所 区民部 株式会社 MAPPA 株式会社 コントレール	石井様、河村様、 赤峰様、塚西様、金子様 高橋様、伊藤様 廣瀬様、橋本様 北澤様、関根様	生駒、谷本、加藤
5	11/7(木) 11:00-12:00	中野区役所 地域支えあい推進部	石井様、河村様、 赤峰様、塚西様、金子様	生駒、谷本、陳
6	11/28(月) 16:00-17:00	中野区役所 地域支えあい推進部	石井様、河村様、 赤峰様、塚西様、金子様	生駒、谷本、陳
7	12/25(水) 13:00-14:00	中野区役所 地域支えあい推進部	石井様、河村様、 赤峰様、塚西様、金子様	生駒、谷本、陳
8	1/31(金) 16:00-17:00	中野区役所 地域支えあい推進部	石井様、河村様、 赤峰様、塚西様、金子様	生駒、谷本、陳
9	2/27(木) 13:00-14:00	中野区役所 地域支えあい推進部	石井様、河村様、 赤峰様、塚西様、金子様	谷本、陳

6. 自治体による従前からの取組

■ 地域包括ケア体制

(取組概要)

中野区では、高齢者の方が可能な限り住み慣れた中野区で尊厳を保って最後まで生活することができるよう、平成29年に「中野区地域包括ケアシステム推進プラン」を策定し、地域包括ケアシステムの構築を推進するために行政と区内の関係団体が一体となって様々な取り組みを進めてきた。しかしながら、個人や家庭が抱える課題は複雑かつ複合化しており、これまでどおりの相談体制・制度では解決が難しくなっていることを受け、令和5年からこれまで主に高齢者を対象として進めてきた地域包括ケア体制をさらに発展・充実させ、支援が必要なすべての人を対象にした体制の構築を目指し、「中野区地域包括ケア総合アクションプラン」策定した。

7. 試行的事業

① 孤独・孤立フォーラムの開催

概要	- 名称: 孤独・孤立フォーラム～孤独・孤立の接点～ - 日程: 令和7年2月22日(土)10:00～16:30 - 開場: 中野区役所 1 階イベントスペース「ナカノバ」
ねらい	- 孤独・孤立対策 PF 設置の周知 - 孤独・孤立対策 PF に参画する支援団体等の掘り起こし及び巻き込み - 孤独・孤立に関する区民の意識醸成
工夫点	- ポスター88枚・チラシ1421枚の配布、中野区やフォーラム登壇者などの HP・SNS 等を通じた積極的な宣伝を行った。 - 孤独・孤立対策に取り組む民間企業によるロボットや VR デバイスの体験会を行い、参加者の孤独・孤立への理解を促した。
結果	- フォーラム参加者数: 151名 - 午前の部: 28名 - 午後の部: 事前申し込み83名、当日申し込み30名

プログラム概要

- 常設展示: オリィ研究所による分身ロボット『OriHime』の体験会
支援活動団体 8 団体によるパネル展示
- 午前の部: 大塚製薬による VR デバイス『FACE DUO』の体験会
中野区で孤独・孤立支援を行う団体の交流の場
- 午後の部: 開会のあいさつ(中野区長)
基調講演(株式会社オリィ研究所所長)
パネリストによる支援活動紹介とパネルディスカッション

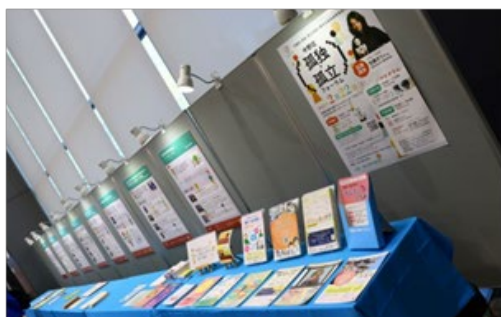
◆ FACE DUOの体験会



◆ 午後の部の基調講演で壇上に立つ『OriHime』



◆ パネル展示



◆ 午後の部の会場の様子



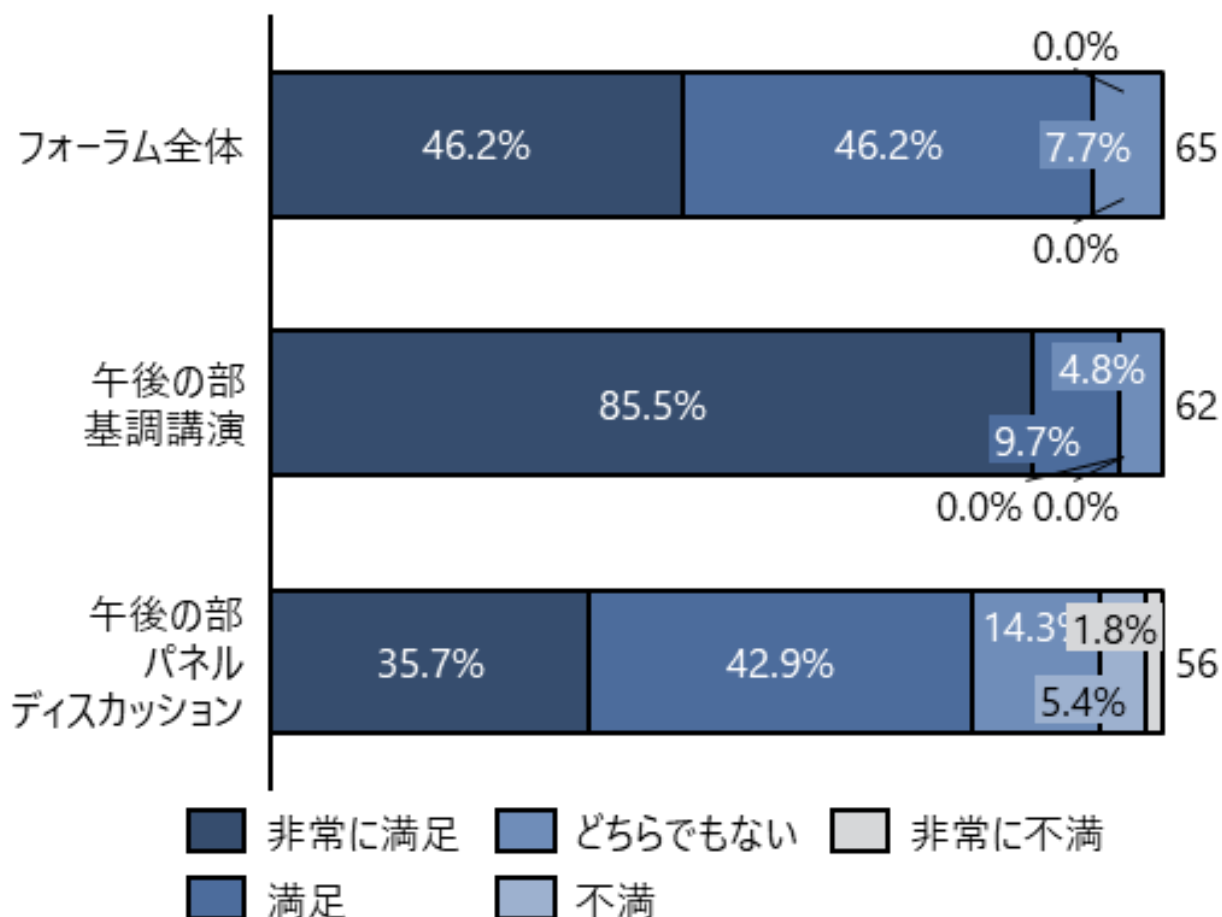
アンケート結果

- ・ アンケート回答数:66件
- ・ 孤独・孤立の課題についての理解:非常に深まった 27 件(41%)、
深まった 36 件(55%)
- ・ 連携 PF への参画への関心:関心がある 23 件(任意回答)
- ・ アンケート項目:フォーラム全体及びプログラムごとの満足度、フォーラムをきっかけに新たな連携・協力が生まれる可能性、フォーラム全体を通じて得た学び など

フォーラムを通じて得た学び・行動への影響(自由記述)

- ・ 孤独・孤立の問題について理解が深まった
- ・ 地域や団体との連携の重要性を感じた
- ・ 自身の活動(地域のサードプレイスづくりなど)に活かしたい
- ・ 高校・中等教育との連携の可能性を考えたい
- ・ クラウドファンディングなどを活用して支援の幅を広げたい

◆ フォーラムの満足度



② 動画作成	
概要	- 名称:ヤングケアラー支援動画の制作 - 公開日:令和7年4月頃
ねらい	- ヤングケアラーの認知度向上 - ヤングケアラー支援事業の周知 - 声を上げてもいい、助けを求めてもいいと思える社会の意識醸成、個人の行動変容
工夫点	- アニメ制作を広報に取り入れることで、視覚的に魅力があり、感情に訴える効果的なコミュニケーションを可能とした。 - 見て終わりではなく、「見て考える」きっかけになるよう制作した
結果	- アニメーションは区の公式 Youtube で公開を予定しており、中野区に限らず、全国に向けてヤングケアラー支援の啓発につながるものである - アニメ制作会社の SNS も活用し、ティザーを打つことで、注目度を高めた(X 表示数約 5 万)

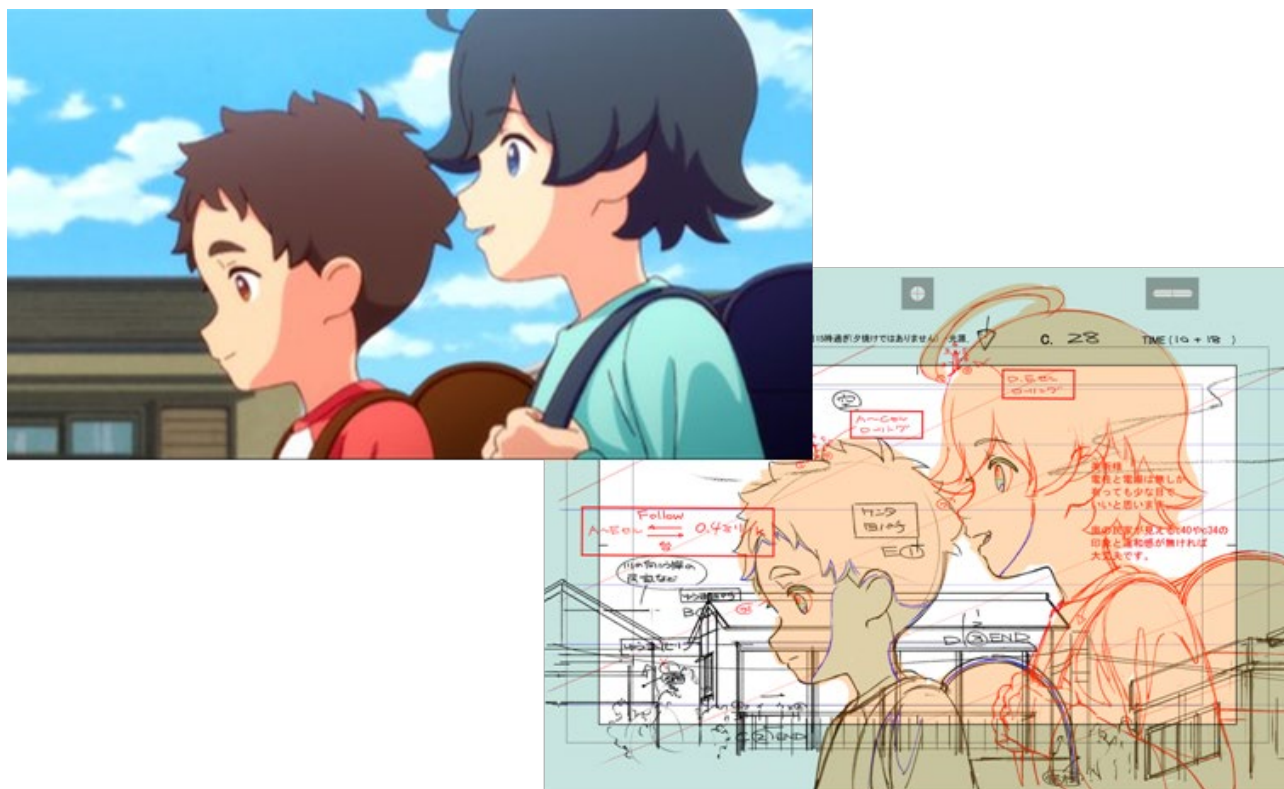
アニメの概要

◆ タイトル

「きかせてほしい きみのこと」

◆ あらすじ

幼馴染のケンタの様子が気になるゆうま。ケンタの状況を聞き、ヤングケアラーを知る。



ヒアリングの実施

支援者が支援したい気持ちが純粹で、そういった人がたくさんいる。

孤独・孤立を感じる人が一歩自分の力で踏み出してもらえるよう、また、踏み出すことを待っている人がいるということを伝えることができる内容とした。

- ・ 中学生・高校生

対象：ハイティーン会議(※)参加者の中学生、高校生

「各学校に相談室はあるが、実際にはかなり入りづらい雰囲気がある」「相談してもなにも変わらないと思う」「悩んでいる友人がいたら助けたい」という中高生のリアルな意見を聞くことができた。

※ハイティーン会議・・・中野区に在住・在学・在勤の中学生・高校生年代が、学校や学年の枠を超えて、意見交換やフィールドワークを通して考えを深め、中高生ならではの意見表明につなげていく事業

- ・ 支援関係者

対象：子どもの居場所支援者、ヤングケアラーコーディネーター

「現実には本人から相談があることはあまりないが、アニメーションを見て希望を見せたい。ポジティブな内容がよい」とアドバイスを受けた。

- ・ ヤングケアラー担当者

対象：祖母の介護を経験した2名に話を聞いた。

「当時は自身がヤングケアラーということを知られたくない訳ではなく、相談するようなことと思わなかった」